

ご利用くださいレファレンスサービス

こんなふうにお答えします

「青嵐中学校の名前の由来について知りたい」「大阪府にある大川という河川名の読み方が知りたい」等々、図書館ではいろいろな質問を受けますが、みなさんの質問には資料の提供で応えていきます。どんな本に載っているのか、その本はどこにあるのか、可能性のある資料を取り寄せ確認をして提供します。公共図書館では用意できないような専門的なことには専門機関の紹介もします。

ただし、図書館が直に回答を示すことはありません。医療相談・法律相談や美術品の鑑定など、資料を提供することはしますが、質問・相談に一つの判断をする、ということはありません。また学校の宿題にも回答することはありません。

レファレンスを受けたい

西東京市図書館では質問を受けると、まず自分の館にある事典・辞書などのレファレンス資料や、その質問のテーマに関する資料を調べます。

これらの資料を調べても回答が得られない場合は、市内の他の図書館

すべてにレファレンスを依頼します。依頼を受けた各館では、回答が載っている資料があれば、期日までに質問を受け付けた館に送ります。

さらに、西東京市図書館にある資料で調べられなかった場合は、都立図書館へレファレンスを依頼します。都立図書館には専門的・学術的資料もあり、幅広い資料群や過去の事例を活用して回答してくれます。都立図書館の資料を西東京市図書館が借り受けて、提供することもできます。

また、質問の内容によっては、博物館や研究所資料室等の類縁機関や大学図書館への紹介も行っています。このように市内外の図書館ネットワークを活用して、質問に答える体制を整えています。

レファレンス資料ってどんなもの？

レファレンス資料には辞書、百科事典、便覧、図鑑、年表、年鑑、地図帳、地名事典、人名辞典、目録、索引、統計などがあります。各館のレファレンスコーナーには机・椅子があり、自由に利用できます。それらの中から一部を紹介します。

調べものをする時にみなさんがまず手に取るのが百科事典ではないで

しょうか。西東京市図書館にも何種類かの百科事典があります。ただ、百科事典の弱点は、新しい言葉や物事に対応できないこと。例えば、冬にフリースを着る人は多いと思いますが、この言葉は現在出版されている百科事典には出てきません。こういう時に役に立つのが『現代用語の基礎知識』(自由国民社刊)、『imidas』(集英社刊)、『知恵蔵』(朝日新聞社刊)などの新語事典です。聞きなれない言葉だなと思ったら、これらをひいてみるのも一つの手です。

美術作品がどの全集に載っているのか調べたい時に便利なのが、『美術作品レファレンス事典』(日外アソシエーツ刊)です。「モナリザ」はどんな絵だったつけ、という時には「ダ・ヴィンチの作品集を見ればいいのですが、どの美術全集に掲載されているかわからない時は、この事典を見れば美術作品を収録している全集名と掲載ページを知ることができます。

知りたい人物のことが何に載っているかを調べるには、『人物レファレンス事典』(日外アソシエーツ刊)があります。この事典には、誰がどの事典に収録されているか、さらに生没年や活動時期、職業なども載っていますので、いろいろな事典を調べる手間を省くことができます。

「牛津」「劍橋」という言葉は地名なのですが、何と読むのかわかりますか。「オックスフォード」「ケンブリッ



ジ」と読みます。このような時、漢字から探すなら『大漢和辞典』(大修館書店刊)ですが、地名や人名とわかっているなら『宛字外来語辞典』(柏書房刊)も便利です。

新聞の縮刷版も、よく使われる資料です。中央図書館には、明治から昭和三十年までの朝日新聞の復刻版一部未刊行)と昭和三十八年から現在までの縮刷版がそろっています。

レファレンス資料は、縮刷版のようないくつかの例外を除き、一日貸し(借りた日の翌日の開館時間中に返していただくこと)をしています。家でじっくり調べたい、という時にお役立てください。

※『imidas』『知恵蔵』は、二〇〇七年版をもって休刊の予定です。

こんな調べもの、あんな調べもの

では、実際にどのようなレファレンスがあるのか、冒頭の質問を含めて紹介します。

◆西東京市に関すること

「青嵐中学校の名前の由来について知りたい。」

この場合、まず、いつ開校したのか調査し、そのころの市報や元保谷町長の著作にあたり、次に平成六年度の学校要覧に由来が載っていることがわかりました。「俳句の季語にもあるように、青嵐とは初夏の木々を渡るさわやかな風のこと、すなわち青春を表すことばである」と書かれています。

◆河川名について

「大阪府にある大川という河川名の読み方が知りたい。」



このような時には『河川大事典』

『河川名よみかた辞典』(以上日外アソシエーツ刊)『角川日本地名大辞典』(角川書店刊)などが活躍します。淀川水系(一級河川)の「大川」も、大川水系(二級河川)の「大川」も、どちらも同じ「おおかわ」という読みであることがわかりました。

◆人物情報

「満州国があつた時代に日本で(ニキ三スケ)と称される五人の著名人がいたのだが、東条英機、星野直樹、岸信介、鮎川義介とあと一人の名前が思い出せないの、探してほしい。」

昭和史関係の事典や人物事典での調査ではわからなかつたので、インターネットで「ニキ三スケ」を検索してみると「石原莞爾フォーラム」というサイトに「松岡洋右」という記述がありました。このインターネット情報を手がかりに石原莞爾に関する資料を集め、次々に内容を確認しました。『地ひろくー石原莞爾と昭和の夢ー』(福田和也著・文藝春秋刊)という本の五四〇ページに記載があり、「松岡洋右」であることが確認されました。

図書館では全館でレファレンスの記録をとり、サービス内容やPRの向上に役立てています。

レファレンス・サービスの受付件数を見ると、ここ二、三年は横ばい傾向です。理由としてはインターネッ

利用者用インターネット検索機で便利な有料サイトのご利用を!

調査・研究を目的に、中央・柳沢・ひばりが丘図書館でインターネットのホームページ閲覧ができます。また、次のような各種有料サイト情報の閲覧も無料で利用できます。

「官報情報検索サービス」では、1947年から当日発行分までの本紙、号外、政府調達広告版、資料版、目録等の情報をすばやく探すことができます。(三館で利用可)

「聞蔵Ⅱ」は、1984年8月から当日朝刊分までの朝日新聞の本紙の記事と『AERA(アエラ)』『週刊朝日』

トの普及により自分で調べることができるようになったり、西東京市図書館の所蔵資料の予約が自宅のパソコンから簡単にできるようになったりしたことも一因ではないかと思われます。

少し残念なのは、図書館に来ていただければ、お探しの本がない場合でも、代替えとなる本を提供したり、相談に応じたりすることができるとおもうことです。どうぞ職員に声をかけてください。

今後の発展に向けて

地域をまなぶ情報拠点としての図書館

これからの図書館には、暮らしに

も検索できます。(柳沢のみ)

「日経テレコン21」は、日経新聞記事検索のほか、企業情報、人事情報、経済統計、株価指数などが充実しています。(ひばりが丘のみ)

「ジャパンナレッジ」は、『日本大百科全書』(小学館刊)『現代用語の基礎知識』など、百科事典や辞典類のほか、雑誌記事も閲覧できます。近年、百科事典が書籍として出版されない中、新しい信頼できる情報源としてご利用ください。(中央のみ)

かわる様々な課題への適切な情報提供が求められています。

このために、図書、雑誌、新聞、地域行政資料、インターネット上の情報等を積極的に活用し、ビジネス・子育て・学校教育等へのサービス支援、医療・健康・福祉・法律等、地域の実情に応じた情報提供サービスが必要です。

西東京市図書館も今後は、Eメールレファレンスの実施(インターネット上で質問と情報提供のやりとりをすること)やレファレンス事例の公開など、「ICT」(インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー)を活用したサービスの展開を目指していかなければならないと考えています。